

ヒラヒラボール遊び

4歳児 きいん組

ヒラヒラボール



① スズランテープ



③折り紙

②新聞紙

最近では自分の思いやイメージを言葉で伝え合いながら、友だちと関わって遊びが楽しめるようになってきています。そこで、今回はヒラヒラボールを使って、どのように遊んでみたいか子どもたちにじっくり聞いてみました。すると、遊びのアイデアが次々と出てきました。アイデアを形にして遊び場を作り、遊んでいる中で友だちのしていることを真似ることや、より難しいことに挑戦してみようとするなど刺激を受け合っていました。ヒラヒラボールの扱いに慣れてくると、今度はこんな風にして遊んでみたいという「〇〇やってみたい」という意欲が増し、自分で試したり工夫したりする経験を積み重ねることで、充実感や達成感を味わい自信となっていました。

友達と一緒にイメージを共有し、友だちと一緒に遊びを発展させる面白さを感じていた子どもたちです。それぞれの遊び場で、一人一人がやってみようと心を動かさし、意欲的に遊んでいた様子をお伝えします。

「作り方」

①新聞紙を丸める②丸めた新聞紙をスズランテープに挟む③折り紙で包みひねる。上手く仕上げるには、ひねりがポイント！

ひねる時の力加減が難しく、力が入りすぎて折り紙が破れることもありました。また、丸めた新聞紙をスズランテープで挟むときに、滑らないように片手で押さえながら、もう片方の手に折り紙を持って包むことが難しく、何度もチャレンジしながら作りあげました。

「投げる場所の線があるところにあるから、このあたりに置こう」

遊びが楽しいと意欲的に準備、片付けを進めます

ヒラヒラボールの扱いに慣れてくると、どんどん難しいことに、自分なりの目標を決めて挑戦します

「小さい輪に入った！」
「今度は、上の奥にあるロケットにあてるぞ」



コップ倒しでは、コップを積み上げた的の形を変えることも楽しみ、そこで気づいたことを友だちに伝え合いながら、自分たちで遊びを発展させていました。

子どもたちなりに、投げ方を試しています。下から投げる、肘をうごかさずに投げる、どうしたら遠くまで投げられるか、入りやすいかなど繰り返し遊ぶ中で、できたことを保育士や友だちに伝え、認めてもらい自信へとなくなっていました。

「今度は、さっきより速く投げたら入るかな」



「見て、2個当たったよ。」的に当たり、達成感を味わっていました。

遊んだ後は遊びを振り返り、遊びの中で気づいたことを言葉にしてみんなに伝えます。友だちの意見を聞き、次回の遊びのコーナー作りへの期待に繋がります。

屋外に出ると、スペースを気にせずからいっばい遠くに投げることができました。子どもたちと思い思いに投げることを楽しんだ後に、グループごとに分かれ、「投げっこ大会」をしました

見ていた子どもたちからも「頑張れー！」の大きな声援が聞こえ、友だちから力をもらいました。



「リングの輪の大きさを変えたら入りやすい」

